

連絡事項 1

「院外処方せんへの検査値記載に関わる連絡事項」

市立伊丹病院薬剤科長 上田 宏

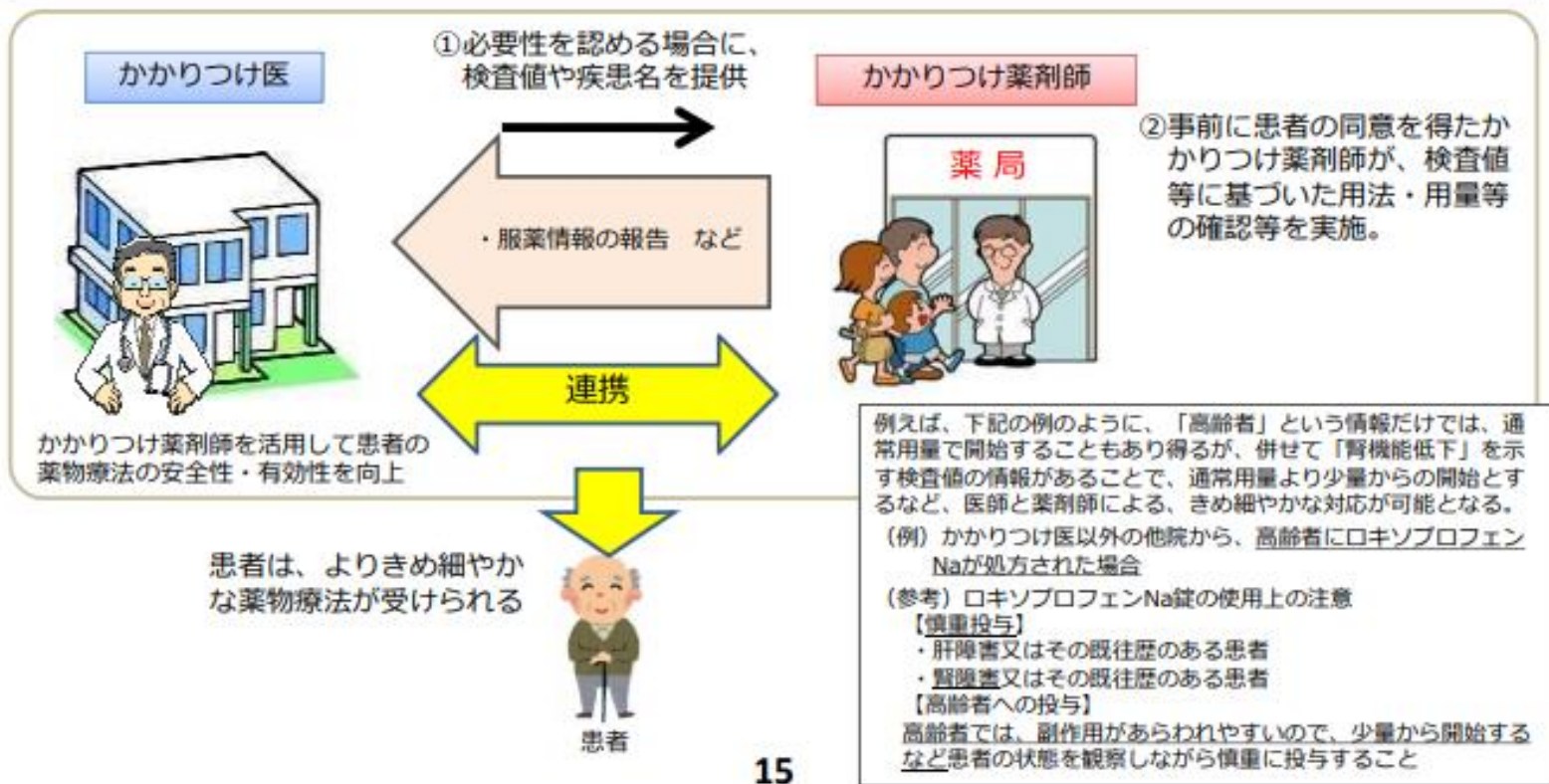
R3/5/20 第5回市立伊丹病院薬剤師地域連携連絡会

市立伊丹病院 院外処方せんへの 検査値記載に関わる連絡事項

- 令和 3年 6月 1日より、院外処方せんに検査値を記載する運びとなりました。
- 検査値記載に係る連絡事項について、お伝えいたします。

かかりつけ医とかかりつけ薬剤師の連携による薬物療法の安全性向上（イメージ）

かかりつけ医が必要性を認める場合に、患者の服薬情報等を一元的・継続的に把握するかかりつけ薬剤師に対して検査値等を提供し、かかりつけ薬剤師が用法・用量等を確認する。こうした取組により、他院の処方薬などの場合でも、かかりつけ医とかかりつけ薬剤師が連携して対応することで、患者に対し、よりきめ細やかな薬物療法が提供できる。

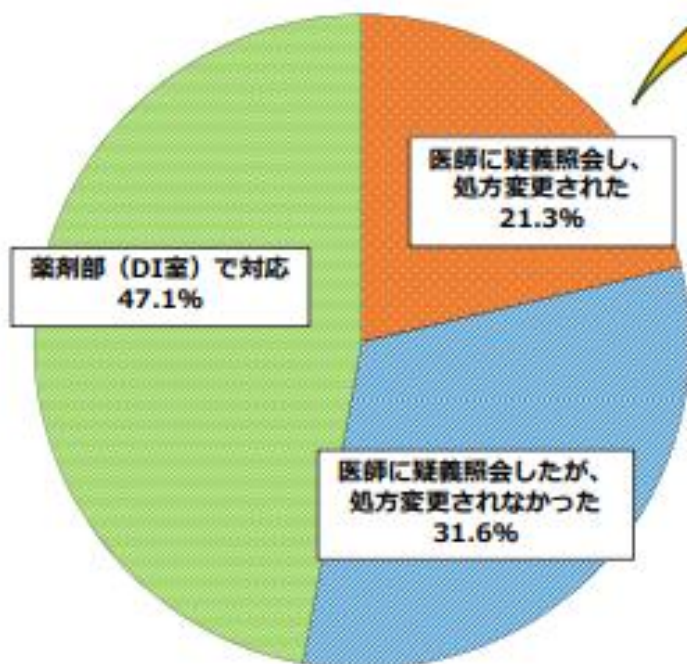


平成29年12月 中医協の診療報酬改定に係る検討の中で
院外処方せんの検査値記載に関する議論があった。

検査値に関連した疑義照会の内訳

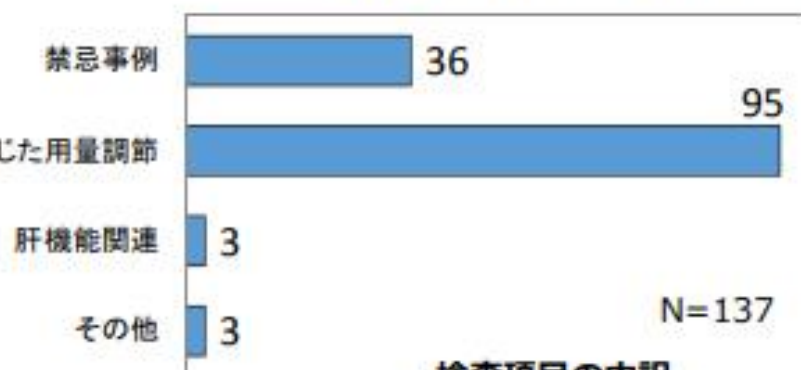
- 検査値を処方箋に記載したところ、薬局からの検査値に関連した問い合わせが643件あり、そのうち、医師に疑義照会し、処方変更されたものは137件（21.3%）であった。
137件の処方変更の中では、「腎機能に応じた投与量の変更」が最も多く、95件だった。

薬局からの検査値関連問い合わせ
件数：643件

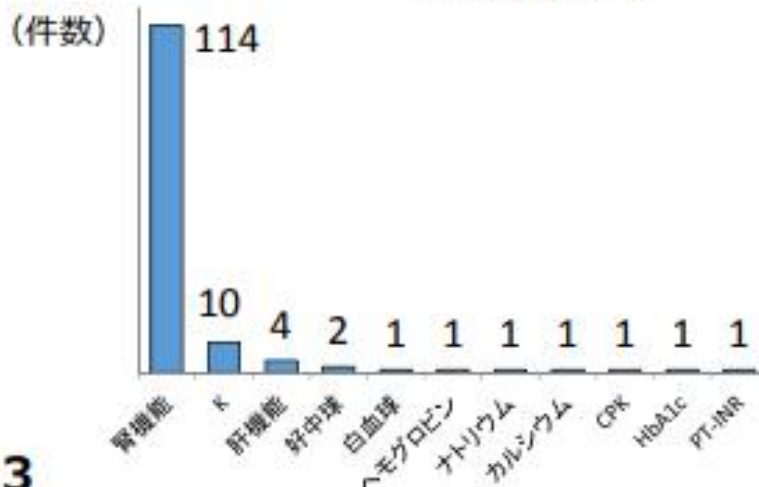


調査期間：2014年11月～2015年10月

処方変更された事例の内訳 (件数)



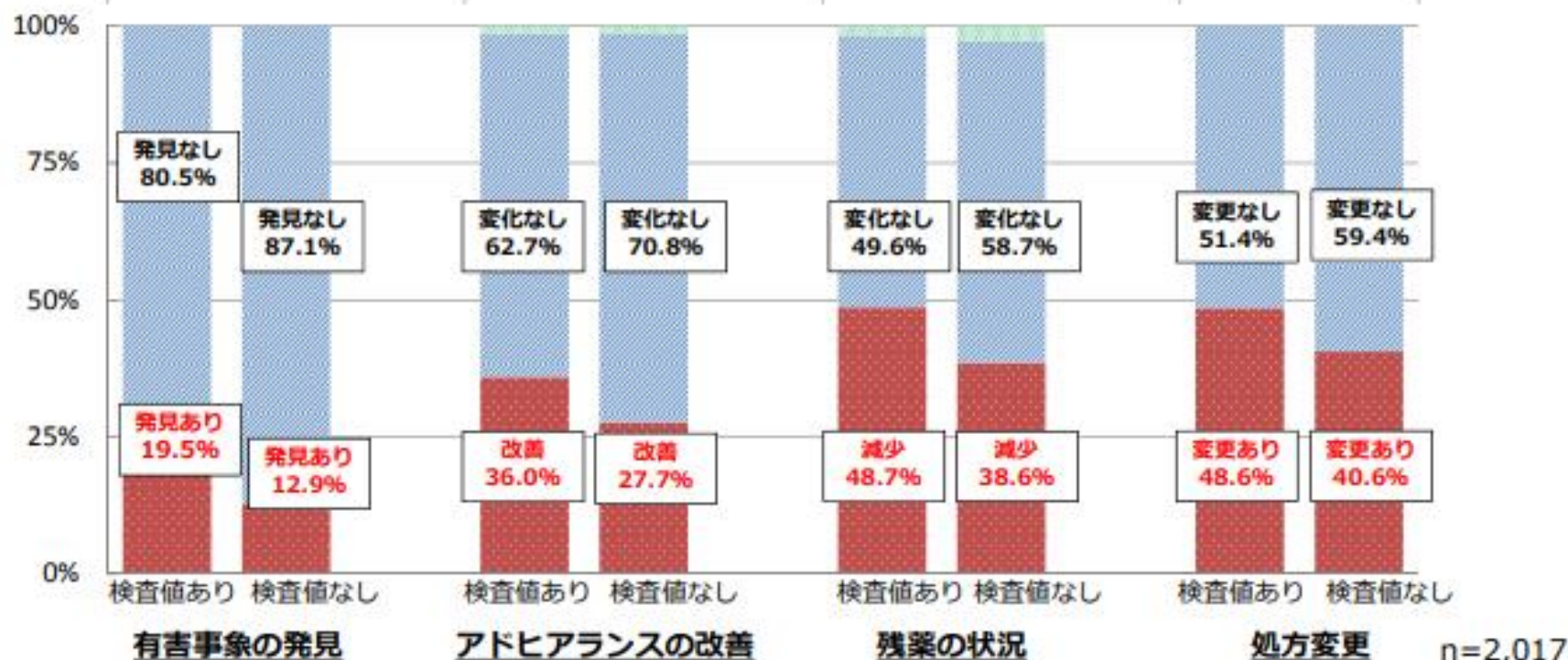
検査項目の内訳



検査値の共有によるアウトカムの改善

- 検査値を共有した場合の方が、共有していない場合に比べ、アドヒアランスの改善や残薬の減少などのアウトカムが向上した。

検査値提供の有無によるアウトカムの差異



注) 薬剤師が在宅訪問薬剤管理を実施している例を対象に解析したもの

【出典】平成25年度厚生労働科学研究費補助金「地域医療における薬剤師の積極的な関与の方策に関する研究（研究代表者：今井博久）」

2017/12 中央社会保険医療協議会総会での議論

賛成派

- 「腎機能が悪い患者に対し、腎排泄型の薬が処方された場合に、検査値があれば、より客観的なチェックができる」(日本薬剤師会常務理事 安部好弘氏)
- 「服薬指導、処方の質を向上させるためには、こうした取り組みが必要ではないか」(厚労省保険局医療課長 迫井正深氏)

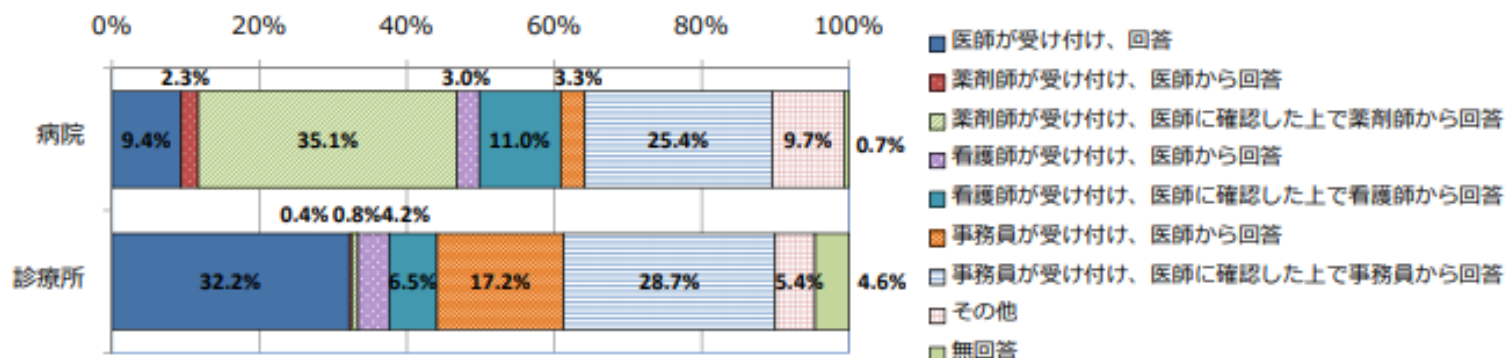
反対派

- 「薬剤師が検査値を基に何を判断するのか。チェーン薬局が営利商品などを売り付けることにつながるのではないか」(日本医師会常任理事 松本純一氏)
- 「薬局からフィードバックについて、通常業務の範囲内で行うことであり、新たに(診療報酬として)評価する必要はない。」(日本医師会常任理事 松本吉郎氏)
- 「医師とかかりつけ薬剤師が直接的にやり取りする状況にない。病院薬剤師と薬局薬剤師との連携についても、現状で十分に取れているとも思えない。」(日本医師会副会長 今村聡氏)

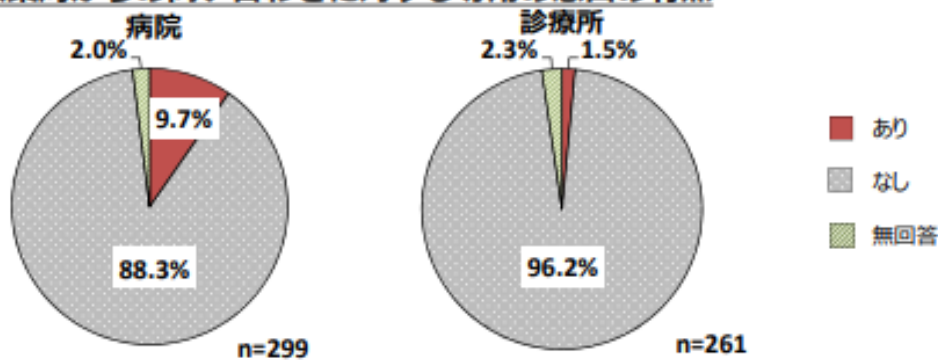
医療機関と薬局の連携に関する課題

○ 医療機関と薬局の連携に際して、薬局からの問い合わせに対する医療機関の対応方法は様々で、特定の問い合わせ窓口を設定している医療機関は少ない。

➤ 保険薬局からの処方せんに関する問い合わせへの対応方法



➤ 保険薬局からの問い合わせに対する専用の窓口の有無



平成29年度医療課委託調査（医療機関調査）

病院と診療所の疑義照会は、「診療情報提供書」で行うことが規定されている。
 保険薬局との疑義紹介について、対応方法が明確でない点が指摘される。

運用開始

- 令和3年6月1日(火)
- 対象 全科の院外処方せん

疑義照会連絡票



FAX 市立伊丹病院薬剤科 072-785-1199



処方箋原本と一緒にFAX送信をお願いします。

市立伊丹病院

報告日： 年 月 日

疑義照会連絡票（後発・後続医薬品変更報告書）

処方医師	科	保険薬局名 (所在地)
患者ID		返信用FAX番号 (電話番号)
患者名		
処方日	年 月 日	担当薬剤師

分類	<input type="checkbox"/> 疑義照会 <input type="checkbox"/> 後発・後続医薬品変更報告 ※ 後発・後続への変更に伴い、初回のみ変更内容をFAXにてご連絡ください。 2回目以降で、初回の変更内容が継続される場合は連絡不要です。
----	---

【情報提供・提案内容】

(事前に市立伊丹病院「院外処方せんにおける疑義照会基準」の確認をお願いします。)

検査値記載項目

- WBC(白血球数)
 - NEUT(好中球数)
 - Hb(ヘモグロビン)
 - PLT(血小板)
 - AST(GOT)
 - ALT(GPT)
 - TBIL(総ビリルビン)
 - CRE(血清クレアチニン)
 - eGFR(推算糸球体濾過量)
 - CRP(C反応性タンパク)
 - Na(ナトリウム)
 - K(カリウム)
 - Ca(カルシウム)
 - ALB(アルブミン)
 - HbA1C(ヘモグロビンA1C)(NGSP)
 - PT-INR(プロトロンビン時間 国際標準比)
 - CPK(クレアチニンキナーゼ)
- (17項目)

検査値の正常値一覧については、当院薬剤部ホームページに掲載。

検査		単位	基準値
WBC	白血球数	10 ⁴ /μl	男性：40 ～ 87 女性：37 ～ 87
NEUT	好中球数	%	34.0 ～ 71.0
Hb	ヘモグロビン	g/dl	男性：13.0 ～ 18.0 女性：11.5 ～ 15.0
PLT	血小板	10 ⁴ /μl	15.0 ～ 35.0
AST	(GOT)	IU/l	8 ～ 38
ALT	(GPT)	IU/l	4 ～ 43
TBIL	総ビリルビン	mg/dl	0.22 ～ 1.20
CRE	血清クレアチニン	mg/dl	男性：0.60 ～ 1.10 女性：0.40 ～ 0.80
eGFR	推算糸球体濾過量	ml/分/1.73	
CRP	C反応性タンパク	mg/dl	0.00 ～ 0.30
Na	ナトリウム	mEq/l	135 ～ 147
K	カリウム	mEq/l	3.5 ～ 5.0
Ca	カルシウム	mg/dl	8.5 ～ 10.5
ALB	アルブミン	g/dl	3.9 ～ 4.9
HbA1C	ヘモグロビン A1C (NGSP)	%	4.6 ～ 6.2
PT-INR	プロトロンビン時間 国際標準比		0.90 ～ 1.13
CPK	クレアチニンキナーゼ	IU/l	44 ～ 208

(令和3年4月)

検査値に係る注意事項

- 好中球数は%表示であることに注意してください。好中球の実際の数値は、WBC値に掛けて算出してください。
- CREは血清クレアチニンです。クレアチニン・クリアランスは最新の身長・体重がない患者において、適正な値が算出できないため掲載していません。
- eGFRは体表面積補正した値です。ml/min/1.73m² クレアチニン・クリアランス(mL/min)に読み替える場合は体表面積による逆補正をお願いします。
- Ca値は、血清アルブミンが低い方では補正が必要です。
補正Ca (mg/dL) = 実測Ca (mg/dL) + 4 - 血清アルブミン濃度 (g/dL)
- HbA1Cは国際標準比(NGSP値)を掲載しています。JDSではありません。(NGSP = JDS × 99.6%)

検査日に関する注意点

- 過去6カ月に遡って、最新の検査値を掲載します。必ずしも処方当日の検査値ではありません。
- 検査値に関わる疑義照会を頂く際、検査の日付に注意をお願いします。
- 検査値は、当院で実施した検査のみ掲載いたします。他院の検査結果は掲載いたしません。
- 検査をしていない項目は、「空白」で表示されます。

検査値に関わる処方内容の疑義照会について

- 通常の疑義照会同様に、当院薬剤部が窓口となります。
- 返信を急ぐ場合は院外処方せん原本、および必要に応じて「疑義紹介連絡票」にてご連絡ください。返信を急がない場合は、トレーシングレポートをお願いします。

その他

- 体重および身長は掲載しておりません。必要に応じて、患者様にご確認下さい。
- 検査値に関わる患者様への説明については、患者様の病態を踏まえて慎重にお願いします。
 - 低アルブミン 低栄養、肝硬変、ネフローゼなど
 - 高ビリルビン 肝炎、胆石症、体質性黄疸など
- 検査値は、経時的な変化を見ることが重要ですので、指導記録等の工夫をお願いいたします。

患者様への通知

- 検査値記載の案内を院内に掲示、およびホームページに掲載。
- 検査値の記載について、患者様個別に同意はとっておりません。

処方せんへの検査値 記載に関するお知らせ

令和3年6月1日より、処方せんを発行するすべての患者様を対象に、血液検査の結果を処方せんに表示いたします。

これは保険薬局にてお薬を調剤する際に、患者様の検査値を確認することで、薬の投与量の適正化や副作用の早期発見が可能となり、安全で安心な薬物療法を提供することにつながります。

なお保険薬局への検査値の開示を望まない場合は、処方せんに記載された点線で切り離して保険薬局にお渡してください。

ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

薬剤科

最後に

市立伊丹病院薬剤部のミッション・ビジョン

「安全で安心な信頼される薬物治療を通して、
患者に寄り添う医療を提供する。」

「いつでも薬剤師に相談できる病院、そして地域医療へ」

当院の患者様が、いつでも保険薬局の先生方に
相談できる地域医療の実現に向けて、
検査値の記載がお役に立てれば幸いです。